

わくわく古代チャレンジ2017

とっておき埋文講座②



はじめに

当センターでは、毎年夏休みの期間に合わせて「わくわく古代チャレンジ」を実施しています。

埋蔵文化財に関する体験活動をとおして、古代に生きた先人の暮らしや知恵にふれ、考古学や埋蔵文化財への関心を高めたり、夏休みの自由研究のサポートを行ったりしています。

以下、今年度の取組について紹介します。

ふるさと考古学教室

7月26日（水）～8月10日（木）の12日間に全7教室、21コースで行いました。内容は「刀鍛冶を体験しよう（ペーパーナイフづくり）」「縄文の文様で飾ろう（縄文小物入れ・縄文プレートづくり）」「古代アジロ・アンギン編みを体験しよう（コースター・タペストリーづくり）」「古代の鏡の鋳造を体験しよう（錫鏡づくり）」「大型まが玉づくりを体験しよう（滑石大型ま



が玉づくり）」「ガラスの装飾品を作ろう（ガラス玉づくり）」「藍染を体験しよう（藍染エコバッグづくり）」です。

今年度は、各教室の募集合計定員310組に対し、のべ850組の応募があり、ここ数年で最大の応募数であった昨年応募数600組を大幅に上回りました。特に新規メニューの「刀鍛冶を体験しよう」のコースは4回の募集合計40組に対して245組の応募があり、平均で6倍を超える倍率となりました。最大応募数は毎年人気の「ガラスの装飾品を作ろう」のコースで初日の15組の募集に対して73組の応募がありました。

特に今年度は、春の企画展「古代へのとびら2017～いにしえの『技

と知恵』～」との関連を深め、展示で学習したことを疑似体験できるようにも工夫しました。

では、新規メニューの「刀鍛冶を体験しよう」について紹介します。

日本では弥生時代に稻作の伝来と同じころに大陸から鉄器がもたらされたと考えられています。富山県での最古の鉄器は射水市囲山遺跡から出土した弥生時代後期の短剣です。これらのことを見て学習した後、いよいよ体験に入ります。



「鍛冶」とは鉄の地金を鍛錬して、製品を製造することです。そして「鍛錬」とは金属を打って鍛えることです。この体験では、鉄釘を七輪の炭火の中に入れ、赤くなるまで熱した後、ハンマーで打ち付け、刃になる部分を薄くなるように叩き延ばしていきます。



炭火で熱された鉄はおよそ800度です。大人が炭火から鉄釘を取り出し、金床の上で子供がハンマーで打ち付けます。この赤みがある間に親子で息を合わせて叩き延ばしていくか



なければいきません。互いの息が合わないと、鉄釘がすぐに冷めてしまったり、延ばしたい場所にハンマーを打ち付けることができなかったりします。最初はなかなか難しいですが、そこは教室のキャッチフレーズの「親子で挑戦！！」です。



出来上がったものは水に入れて「焼き入れ」し、砥石で研いで刃にします。この「研ぐ」という活動も初めての体験の子供が多く、なかなか苦労している姿が見られました。



新聞紙で試し切りをした後は、柄の部分に様々な模様のテープで装飾して完成です。刃の部分は厚紙で作った鞘に納めて持ち帰りです。刃の部分は鋭くなっているので、扱いには十分注意してペーパーナイフとして使用してくださいね。



こども考古学クラブ

今年度のこども考古学クラブは「目指せ未来の考古学者！！」のキャッチフレーズのもと、小学校6年生限定で募集しました。より歴史について学習したいという意欲をもつ



た児童11名が参加し、8月16・17・19日の3日間昼食持参で午前午後通して歴史についての学習、学習したことに関連する体験を行いました。

こども考古学クラブでは、学校で学んでいる社会科の歴史学習をもとに、富山県の遺跡や出土品と関連させたセンターオリジナルのクイズ「考古学クラブ検定」を中心に進みました。出題されたクイズに対して答える際は、子供自身が学校で学んだことや、本を読んで知り得た知識を駆使して、真剣に考えて理由を述べている姿が多く見られました。

また、展示室や普段入ることのできない収蔵庫等を見学し、展示や遺物についての説明をノートにメモしたり、写真に撮ったりしました。

中身の濃い充実した3日間になりました。



わくわく考古体験コーナー

当センター会議室とロビー、テラスを利用して考古体験コーナーを設

置しました。内容は「まが玉づくり」「組ひもづくり」「アジロ編み」「アンギン編み」と、「くるみ割り体験」「火起こし体験」「ヒスイ穴あけ体験」「土器パズル」「古代すごろく」「古代衣装体験」と新規メニューの「中将棋」「まいぶんライブラリー」です。夏休み中は多くの方が体験されていました。



終わりに

「夏休みの自由研究にもってこいです。参加してよかったです！」「子供の口から『楽しい♪』と聞きました。大変よかったです」「親も子も勉強になりました」「来年も是非参加したいです」

アンケートには多くの意見が寄せられました。参加されたほとんどの方が大いに満足したと回答されました。今後も歴史や考古学に興味をもてるような体験や講座を企画運営していきたいと考えています。

(橋 泰弘)